

■ 置かれた場所であなただどのように生きていますか

「My shoes」という動画に穴あきの靴を履いた男の子ができます。彼はある日、きれいな靴を履いてベンチに座っている男の子に出会います。彼はきれいな靴を履いたその男の子をとてもうらやましく思い、心からその男の子と変わりたいと願います。すると願いが叶います…しかし、きれいな靴を履いた男の子は足が不自由で歩けなかったのです。最後、彼は車いすに乗せられ悔しそうに去って行くというお話です。彼は一生穴あきの靴を履いている人生だったのではなく、靴を買う能力を持っており、自由に生きる道がありました。しかし、彼が選んだのは相手をうらやんで彼になりたいと願うことでした。

このように隣人の表面だけを見てうらやましいと思ったり、目に見える行為だけで物事を判断し、劣等感に陥ったり、見下し排除したりしてしまう目線を私たちがもっています。だから今日、どれだけ私たちが目や耳で物事を感じ、今起きている現状に右往左往させられて生きているかを考えていきましょう。

今、私たちの生活はコロナという小さなウイルスが問題で世界中の現状をも変えられています。これからどのようになるか誰も分かりません。しかし、このように何か問題が起きた時にクリスチャンはどうあるべきでしょうか。目の前の問題にだけ目を向けてどうしようと悩むのでしょうか、それとも現実には置かれている現状をみて本質を受け取ろうとするのでしょうか。私たちはこのような時、良心により自らが感じ取って最善を尽くせるように行動すべきです。

今、何が正解かを見出せない問題に対して、世の中では誰かが取った行動について批判する人が多くいます。しかしクリスチャンはこのように人を批判する破壊者にならないでください。また、ただ見るだけの傍観者にならないでください。私たちがなるべきは解決者です。あなたがどうしてその場所に置かれたのか、その状況をみせられているのかを感じ取って、どう解決するかを聖書のうちにみつけましょう。

■ 私たちの目（考え）のズレ

人は自分が経験しないと、たとえ周りの人がどれだけ伝えてもなかなか信じる事が出来ないところがあります。ヨハネ 20:24-29にあるトマスもそうでした。トマスは復活したイエス様をみたという弟子たちに対し、「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言います。なぜ弟子たちの言ったことを信じられなかったのでしょうか。もし彼のその時の感情を理解し、彼の目がズレていた中に見出すならば、「ほかの人のところには現れたのになぜ私のところに現れてくれなかったのか…」という悔しい思いが多少なりともあったことが読み取れます。トマスは決してイエス様が生き返ったことを信じていなかったわけではありません。ただ、弟子たちの言葉に自分の感情をぶつけるという間違っただけの決断をしてしまったのです。その証拠にトマスはイエス様が再び現れた時、手の釘の跡を見せるようには言わず、「私の主。私の神。」と言ってすぐその場にひれ伏しました。

その後のやり取りは聖書に記されていませんが、想像するにトマスの本心をそこにいたみんなと分かち合ったのではないのでしょうか。彼が不信のトマスと呼ばれるようになったことはとても残念なことですが、彼の気持ちを受け取り、その行為を自分にあてはめてみるとよく分かります。本当は受け入れたいけれど別の受け入れ難い要

素がある時、私たちは頑なになりそれを受け入れることが出来ないという失敗に至ることが多々あります。ですから私たちが外郭的に影響を与えるために、その状況の中で客観的に物事をみているか考えましょう。特に近い人に対しては感情的になることもあります。聖書は『日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。(エペ 4:26b)』と伝えています。相手の行動を自分にあてはめて起きた現象を理解していくと、問題の解決がなされていくようになります。ですから、自分を顧みて相手と向き合っていくいきましょう。

■ 目を閉じて霊で感じる

聖書では命を霊、魂を知識・意思・感情といい、これらは統合性をもっています。霊は魂に強い影響を与えますが、この霊は罪を犯すと弱って死んだ状態になります。創世の時代に悪魔が人を惑わし死なせてしまったのはこの霊です。霊は、母と子を繋ぐへその緒のようなもので、私たちが神様と繋がっている部分です。もしへその緒が切れたらどうなるでしょうか…今、私たちが神様との関係もこのようになっています。神様との関係が切れると、私たちは神様に聴き自らで考えて行動するのではなく、目に見えている情報に流されて恐れと不安によって対策を打つ者になってしまいます。あるべき姿があるにもかかわらず、やり方が気に入らない、自分が馬鹿にされた気がするという自分の感情によって、わざわざそうでない道を選んでしまうようになってしまうのです。今、愛する人に対してそのような態度をとっていないでしょうか。間違っただけの行動をする人を批判したり排除したりする人になっていないでしょうか。また力で抑圧する人になっていないでしょうか。プライドのために罪を認められない人になっていないでしょうか。本当にその決断が正しいのか、私たちは肉に生きるのを捨てて、内側に感じ生かすべきです。聞く耳（霊の耳）と備えをしていきましょう。

祈り

目に見える問題だけをみて失敗する目のズレを認めて、霊の目で感じ語られる声を聴いていきます。また今、小さなウイルスに恐れ、かかったらどうしようと考える心を捨てて、もし自分の時間が終わるとしたら本当にこれでよいのかを考え生きていきます。

『わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現さないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。わたしは、愛する者をしかり懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。(黙3:18-19)』

イエス様の弟子たちは別人に変えられました。それは見る目が変わったからです。私たちの目にイエス様の目を着せ、羊飼いである方の声に聞き従っていきます。

本質と真理を教えてください。真理を知った私たちはこの世の矛盾を裁くのではなく愛と犠牲によって赦し、正しい道に導きます。感情に負けて間違っただけの行動をすることなく、最善をつくし良い影響を周りに与えられるように、私が変わります。隣人のために祈り、共に愛し合い、置かれた場所で解決がなされますように。

(要約者:平澤 瞳)

(2020年5月3日)